

シテオク文における動詞の特徴的タイプの分布特徴

—準備・処置・無作為タイプを中心に—

夏程承^{かていしょう} 名古屋大学・大学院生

動詞と補助動詞オクの統合体として、シテオクは「準備」「意図」「効力」といった意味特徴を主に持つと捉えられてきた。

例えば、

(1) 今夜勉強します。

というと、単なる意志決定を表すが、

(2) 今夜勉強しておきます。

というようにオクを後接させると、テによって表される動作（以下シテオク動作と称する）がデフォルトに、確実な効果を見越しての準備行為と解釈される。「明日試験が控えている（ので）」のような動機づけが背後にあるんじゃないかと、聞き手がおおむねそういった発話意図を想像するからである。

そして、

(3) 明日別の用事があるので、今夜のうちに勉強しておきます。

のように言うと、まだ遂行できる期限の内に完了した行為であることを示唆しているという捉え方もある。また、最優先解釈ではないが、

(4) 今夜勉強しておきます（ので、お説教はもうやめてください）。

というように、話題を切り上げようという意志が感じ取れる終結的宣言として用いられることもあれば、

(5) （テストの出題範囲がまだ分からないけど、とりあえず）今夜勉強しておく。

のように、仕方なくする動作、あるいは一時的処置を示すこともある。

このように、シテオク文では、前後文脈が動機づけや、当面置かれた窮地を指し示すのに不十分な場合、テキストに潜む語の意味が曖昧であり、文脈だけ足せば、オクを用いる必要性がかえって低下する問題も浮上してくる。そのため、オクはそれ自体意味の薄い語とも言われてきた。

以上を踏まえ、シテオク文を、意図性が強く出る①準備型と、終結性が強く出る②処置型と、オクのスコープが時間を指し示す副詞節までとなる③放置型に分けた体系下において、位置づけようとする。

さらに、シテオクの使用実態が明らかになるように、オクの前接動詞の語彙的意味ごとの量的研究を行い、集計を取る。総じて見ると、どのタイプにも均等に分布するという仮説に反し、態度を示すタイプが無作為型に親和性が高く、その他 8 タイプでは、いずれも準備型が最も高い割合を占めている。結論として、準備型と処置型の分布が恣意的に偏在し、無作為型のシテオクのみ態度タイプに偏る。